

(様式2)

平成 26 年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1595400027		
法人名	有限会社 大輪		
事業所名	グループホーム 奥阿賀 大輪の里		
所在地	新潟県東蒲原郡阿賀町鹿瀬11603番地		
自己評価作成日	平成26年8月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/15/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/15/index.php</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成26年9月30日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム奥阿賀 大輪の里は、自然が豊かで四季折々の風景が近くで感じられる、静かで安全な高台に立地しております。集落から離れており、交通の不便さはありますが、施設の周辺を散歩したり、植物を育てたりと、とても優雅に過ごせる環境にあります。お風呂は、自慢の天然温泉でゆっくり好きな時間に入浴することができます。開所して2年が経ちますが、これからも新しいことに色々とチャレンジしていこうと考えております。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は周囲を山に囲まれた自然豊かな地にあり、移り変わる季節を日々感じながら生活することができる。建物は木のぬくもりのある造りとなり、温泉が引かれた浴室と合わせてゆったりとくつろいだ雰囲気を感じさせてくれる。

すぐ隣に併設されている小規模多機能型居宅介護事業所とは、日常的に看護師に相談したり、教えを受けたり、また、行事などを一緒に行ったりと、協力して事業を行っている。ふたつの事業所の利用者間の交流も日常的に行われており、利用者の楽しみとなっている。

事業所が集落から離れた立地であったり、近くの集落の住民がみな高齢者であったりと、地域との交流が課題であるが、開設して2年が経過するなかで、そば打ちや流しそうめんを企画して地域の方を招待したり、避難訓練への参加を呼び掛けたり、ボランティアに来てもらったりと、運営推進会議などを利用しながら働きかけて少しずつ交流も広がってきている。

職員は若く、また高齢者福祉に従事した経験を持たずに入職している職員も多いが、職員同士及び管理者・職員間のコミュニケーションはとても良く、それぞれが事業所の役割を理解し、利用者一人ひとりを大切にケアの実践や課題の克服に意欲的に取り組んでいる姿勢が見受けられた。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時に事業所独自の理念を作成した。日々のケアの中で、理念を忘れないために、常に見える場所へ掲示し、実践につなげている。	平成25年春に誰もが理解できるよう分かりやすい言葉に改めた理念を、事業所の玄関と事務室に見やすく掲示している。管理者、職員は日常のケアで壁にぶつかった時などには理念に立ち返り、より良い支援の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの方々よりカラオケの演奏を聞かせていただいた。日頃ゴミステーションの掃除をしたり、ベルマークを集め保育園へ寄付をしながら交流を深めている。これからも行事などを増やしながら更に地域の繋がりを強めていきたい。	地域のごみステーションの清掃や、ベルマークを集めて保育園に届ける活動を通して交流している。また、歌やギター演奏等のボランティアの受け入れを行ったり、そば打ちなどの行事には地域の方にも参加してもらっている。今後は地域の文化祭に利用者の作品を出品しようと取り組んでいる。	事業所が山間地にあり、一番近い10戸ほどの集落は高齢化が進んで地域住民との日常的な交流が難しい状況にある。今後は、地域の文化祭への参加や、広報紙の地域への配布などを予定しており、そうした取り組みにより、より一層の地域交流が促進することを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現時点で実践できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、二カ月に一回の頻度で区長・民生委員や包括支援センター職員からも参加していただき、活動報告を行い、助言や意見等をいただいている。	併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で、2ヶ月に1回開催している。利用者代表、利用者家族、地域包括支援センター職員、区長、民生委員、地区代表、ボランティアグループの代表に参加してもらい、事業所の運営状況や事故・ヒヤリハットの報告の後、事業所の課題や災害対策について話し合っており、出された意見は運営に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	協議会を開催した際に、町の職員からも参加していただき、助言等をいただいている。更に、町の議員の方々に施設へ視察にきていただいたり連携をはかっている。	行政の担当者とは日常的に相談できる関係ができています。また、阿賀町の他のグループホームや小規模多機能型居宅介護事業所が参加する連絡協議会を年数回行っており、その際にも行政の担当者に要望を出したりアドバイスをもらったりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃から職員一人一人が身体拘束等することがないように意識し、支援させていただいている。夜間は除き、玄関等の施錠もしていない。	身体拘束に関するマニュアルを整備しており、新任の職員にも伝達して身体拘束のないケアを実践している。外部研修には参加していないが、管理者や看護師、介護支援専門員が講師となって内部研修を行っている。日中は玄関の施錠はしておらず、利用者が自由に出入りできるようにしている。	今後は、内部研修にとどまらず外部研修にも積極的に参加して、より専門的な立場の講師からより深く身体拘束について学び、身体拘束のないケアの実践を継続していくことを期待したい。
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は行ってはならないことと全職員が周知し、細心の注意を払っている。関連法についての学習も行っているが十分とは言えない。	虐待に関するマニュアルが整備されており、新任職員にも説明している。利用者に対する言葉遣いなどで気になることは管理者や職員同士で注意しており、日常のカンファレンスでも虐待についての話し合いを行い虐待防止に努めている。だが、継続的研修については十分ではない。	今後も虐待が見過ごされることのないよう、高齢者虐待防止関連法や様々な種別の虐待についての理解を深め、全職員に周知が図られるよう、内部研修だけでなく外部研修にも参加して継続的な学習を行うことを望みたい。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点において成年後見制度を必要とされるご利用者はいないが制度を理解する為に、学ぶ必要があると考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、管理者がご利用者様及びご家族様に対し、契約書と重要事項説明書で詳細を説明し、理解・納得を得たうえで契約をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には施設へいつでも来てもらえるよう、はたらきかけている。ご家族来所時にはこのご利用者の近況報告を行い、意見や要望等を聞き、反映された支援内容になるよう努めている。	運営推進会議には利用者、家族に出席してもらい意見を聞く機会としている。また、家族の面会時にも積極的に意見・要望を聞いて運営に活かすようにしている。今年度は家族にアンケート調査を実施したが、意見や要望、苦情等は寄せられなかったため、今後は家族の声を引き出しやすいように質問内容を更に検討して行く予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常業務の中で職員からの意見・要望があった際には、カンファレンスで検討を行い、反映させている。	管理者は職員が意見を出しやすい雰囲気作りに努めており、月1回の職員全体会議でも職員から様々な意見や要望が出されている。出された意見等は管理者が代表者へ伝えるだけでなく、代表者も事業所に来て直接職員から意見や提案を聞き、運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が代表者に職員の声を話すだけでなく、代表者自らも現場に来て、職員から話を聞いたり、様子を見て、環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得や技術向上へ向けての講習会に参加させてもらい、日々のケアに努めている。また、研修の希望があれば応じるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	阿賀町管内の協議会において、管理者の交流を図っている。他事業所の活動報告等を聞いたり、助言をもらうことで関係を築きながら、サービスの質向上に努めている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者に慣れていただくことを最重点とし、ご本人からの不安事や心配事を伺い、安心してご利用いただけるよう努めている、		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用者本人の気持ちを把握するだけでなく、ご家族の方の希望や要望も把握し、安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居される際には、ご本人・ご家族とお話する中で、ニーズを把握し、適当なサービス・支援を提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者お一人お一人のこれまで行ってきたこと、今できることを見つけ、支援している。日々の中でご利用者に対する感謝の気持ちの声かけを行い、直接伝え、一方的な立場にならないように関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話連絡では、ご利用者の生活歴等を聞いたり、相談したりと、頻繁にやり取りを行っている。面会に来られた際にはゆっくり過ごせるように支援させていただいている。	毎月、利用料等の請求書を送る際に利用者一人ひとりの生活の様子を記載した手紙を同封している。面会時や電話でも利用者の様子を伝え、家族と情報の共有を図るよう努めている。また、家族には受診の同行や外出、時には外泊などの協力を働きかけて利用者と家族が疎遠にならないよう配慮している。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の知人・親戚等の方も来所しやすい環境をつくり、隣接する施設に知人がおられる方は訪ね交流ができるように配慮している。	馴染みの商店や床屋へ出かけており、友人の来訪を歓迎し、隣接する小規模多機能型居宅介護事業所を利用している友人とも日常的に交流している。また、遠方から家族が来られた際は自宅での外泊を勧めるなど、これまでの関係を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	部屋の閉じこもりを防ぐために、居室で過ごされる方には、定期的に声掛けを行い、負担にならない程度のホール誘導を行っている。ご利用者同士が協力し、支えあっている光景が見られる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用者が入院されたときも、ご本人に面会に行ったり、ご家族と連絡を取り合い、必要に応じて支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表情や会話などからご利用者の思いを把握したり、ご家族からも生活歴などの確認を行い、努めている。	入居時に本人・家族から希望や意向を聞いており、その後も日々の生活の中で希望を聞くようにしている。聞くことの難しい利用者については、出来るだけ思いに沿ったその人らしい生活が送れるよう、言葉や表情、しぐさなどから把握するように努めている。今後は、センター方式のアセスメントについての内部研修を行い、より良いケアの提供につなげていく意向である。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との日々の関わりだけでなく、ご家族にも聞き取りを行い、把握に努めている。	入居時の本人や家族への聞き取りから生活歴を把握すると共に、日常の会話からも把握するようにしている。また、近所の方や友人が来訪した際の話も貴重な情報として日々のケアに活かすようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者お一人お一人のできることを把握し、それぞれ無理のない程度に、日々の活動の中にそれを取り入れ、継続に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族やご本人の意向を反映した介護計画を作成できるようつとめている。	入居前の担当居宅介護支援専門員や家族、病院等からの情報と職員の意見をもとに介護計画を作成し、家族に確認してもらっている。介護計画は、全体会議で半年に1回意見交換をして定期的な見直しをしているが、必要に応じて適時の見直しも行っている。	介護計画作成の基本となるアセスメントや日常のケアの記録が十分とは言えない。今後、アセスメントにセンター方式を使用する予定であり、日々の記録についても書き方を検討する意向であるので、その早期実現に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を用いて様子や、職員からの気づき等を記録し情報を共有しながら介護計画の見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り、ご本人、ご家族の希望に対応した柔軟な支援や多機能化につとめている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	集落が離れた場所にある為、近所付き合いは十分ではないが、できる限り出かけるようにつとめている。今後も様々な計画を立て、地域のつながりを支援していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人、ご家族と話し合い適切な受診ができるよう支援している。ご利用者に職員が付添をし、医師との連携を図っている。	受診については本人、家族の意向を聞いているが、これまでのかかりつけ医を継続する方が多い。家族に受診同行をお願いしているが、遠方の家族が多いため職員が付き添うことがほとんどで、受診結果はその都度必要に応じて家族に報告している。診療所の医師とは、電話で指示を仰ぐなど連携が図られており、県立病院とも夜間や急変時に対応の相談を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接施設の看護師に情報を提供し、看護師からの指示や助言をもとに、適切なサービスを受けられるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院した際には、定期的に面会に行きご本人の様子を直接見に行くだけでなく、病院関係者からも様子を聞き情報交換等しながら連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、事業所の対応範囲を説明している。ご利用者の状態変化がみられたときは、その都度ご本人、ご家族の意向を聞き、事業所としてのできる範囲内で支援している。	重度化した場合や終末期については、入居時に事業所が対応できる範囲を説明している。状態の変化があった場合は、家族や医師と相談しながら対応している。受け入れ先がなく、当初説明した範囲を超えて対応したケースもある。	今後、事業所の指針を明文化する予定であるが、重度化した場合の本人、家族の不安を軽減し、きちんと方針を共有するためにも早急に文章化し話し合う機会を持つことを望みたい。
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当て初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所マニュアルに従い対応しているが、定期的な研修は行っておらず、実践能力を身に付ける必要性が感じられる。	誤飲や転倒、火傷、感染症等の対応マニュアルが整備されており、看護師を講師とした講習会を毎年定期的に行っている。隣接の小規模多機能型居宅介護事業所にAEDが設置されていることから、職員の要望もあって3ヶ月に1回その使用法や心肺蘇生法の研修を実施している。また、職員には消防署で行う研修にも参加を促して、急変や事故発生時に備えている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いのもと地震車で体験をさせていただいたが今年はまだ行っていない。地域との協力体制の構築までは至っていない。	年2回、避難誘導訓練を行っており、そのうち1回は消防署職員の立ち合いのもとで行っている。また、職員の要望により通報訓練も毎月1回実施している。地域との協力体制も必要と考え、去年は隣接の小規模多機能型居宅介護事業所と連携して起震車による地震体験に地域の方にも参加を呼びかけるなど、取り組みを行っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬の気持ちを持って関わる事が出来るよう丁寧な言葉遣いに気を付け、お一人お一人の意見を尊重した対応を常に心掛けている。	職員は利用者を年長者と意識し、なれ合いの言葉とならないよう丁寧な言葉かけを心がけて日々のケアにあたっている。失禁時は居室で着替えてもらったり、トイレ誘導など介助場面では周りに気を配り、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で言葉だけでなく、表情等の非言語のものからも、思いを把握し、自己決定を促しているが、十分な表出に繋がらないことがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人のペースに合わせ、意見を尊重しながら支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意見を聞きながら、衣類は決定している。髭剃りや、散髪など細かい面でも気を配りながら支援につとめている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや食前準備、食後の下膳等、ご本人ができる範囲内で手伝っていただいている。各イベントでは、特別メニューを考えたりと食での楽しさを支援している。	利用者の希望を取り入れてメニューを考えており、買い物には利用者と一緒に出かけ、できる方には配膳等を手伝ってもらったり、行事食やおやつ作りなども一緒に行っている。盛り付けや副食の数にも気を配り、目でも楽しんでもらえるよう、また、できるだけ職員も一緒に食べて楽しい時間となるよう努めている。必要に応じてきざみ食やとろみ食など、一人ひとりに合わせた食事形態を提供するなど配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人の状態に応じて刻み食や、粥食に対応し、摂取しやすいように支援している。水分補給は時間以外にもこまめに摂れるように気を遣っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、誘導を促し口腔ケアを行っている。洗浄が不十分な方には、適正な介助にて口腔内の清潔を保持しつとめている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の尿意や便意に合わせて、支援している。気持ち良く過ごしてもらうために、さりげなく声かけを行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、尿意のある方はできるだけトイレで排泄するよう促しており、尿意のない方については定期的に排泄確認を行ってトイレ誘導をしている。トイレへの誘導の際は周りに配慮し、さりげない声かけを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的な水分摂取の声掛け、日中は出来る限り活動的にし、腸の動きを促せるように支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の状態に合わせ入浴支援をしている。また入浴時間は設定しているが、自分の入りたい時間になるべく近づけたサービスに努めている。	温泉が引いてあるので、24時間いつでも豊富なお湯でゆっくりと入浴を楽しんでもらっている。入浴は主に午後の時間帯が多いが、その中でも出来るだけ利用者の希望を聞いており、毎日の入浴や、失禁時など必要に応じての夜間や早朝の入浴にも対応している。。また、入浴時は職員と利用者がゆっくり会話できる大切な時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冬期間はご利用者が馴染みのあるこたつをホールに用意し、くつろげるようにしている。就寝時間も個々の生活習慣に応じて安心して休んでいただけるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示に従い職員が配薬を行っており、服薬が確認できるまで見守りをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の状態に合わせて可能な限り洗濯物をたたんでもらったり、様々な場面で張り合いのある生活が送れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご利用者の希望に合わせて、散歩へ出掛けたり、町内をドライブし景色や自然を楽しんでもらえるように支援している。	自然に恵まれた環境にあるので、四季折々の周囲の景色を楽しみに散歩に出かけている。日常的にも日用品や食材の買い物などで外出する機会は多く、また、三川や西会津方面などへのドライブにも出かけている。家族の面会時には声をかけて利用者と一緒に外食をしてみようなど、外出支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に事業所で預らせてもらっているが、ご本人の希望によって使用できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用してもらい、家族や大切な方といつでも交流ができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレにはご利用者に作成してもらった貼り絵の案内板をわかりやすい場所へ貼っている。また、季節に合わせてご利用者と職員で制作したものをフロアに飾り掲示している。	内部は全体として木のぬくもりが感じられる落ち着いた雰囲気造りになっている。エアコンや空気清浄機で温度や湿度の管理を行っており、気になる臭いもない。掃除も行き届き清潔が保たれている。利用者と一緒に作った手作りの装飾や、広い窓からの景観が季節を感じさせてくれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本、ご利用者の好きなように過ごしてもらっているが、居室の閉じこもりを防ぐために、定期的に声掛けを行いホールへ誘導し他者と交流できる場を作っている。テーブルの位置も配慮し、配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までご本人が使っていたものを出来るだけ持参してもらい、居心地のいい空間づくりに努めている。	居室は、毎日の水拭きと週に2度の漂白剤を使っの床掃除等で清潔保持に努めている。家族に使い慣れたものを持ち込みをお願いし、その人らしい居心地の良い空間づくりに取り組んでいる。	使い慣れたものを持ち込みが少なく、きれいに整理されているが殺風景とも感じられる居室が見られた。家族への働きかけを継続して行うと共に、カレンダーや行事の写真を飾るなどの工夫をし、その人らしい居室づくりにさらに取り組むことを望みたい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで段差もなく歩行しやすく車イスでも可能な環境にある。手すりも設置されているので、安全・安心して生活が送れるように工夫している。		